

福岡市内における自転車利用特性に関する考察

九州大学工学府 学生会員 河野 桂一郎

九州大学工学研究院環境都市部門 フェロー 橋木 武

九州大学工学研究院環境都市部門 正会員 梶田 佳孝

1. はじめに

現在、福岡都市内においては自転車の利用が増加するのに伴い、多くの路上駐輪や放置自転車等の自転車利用に関する問題が目立ってきている。福岡市の調査によれば、都心地区における自転車の流入台数だけを見ても、10年程前には1500台前後であったのが、ここ10年で6000台近くへと劇的に増加している。なおここで言う都心地区とは天神地域を指す。また、同地区における駐輪台数も、流入台数が増えるのにつれて増加している。このような状況下で、福岡市では昭和60年から、自転車対策に本格的に取り組み、市営駐輪場の整備や、放置自転車対策に取り組んでいる。しかしながら、依然として設置されている駐輪場に止めない路上駐輪自転車の数が多いことや、一向に減少しない放置自転車が問題としてある。

本研究では、先に述べたような自転車に関する諸問題に関して、実際にそれらを利用する自転車利用者を対象とし、自転車利用に関する意識調査を行い、利用者の利用特性と実際に行なわれている自転車に対する都市交通政策がどのように関連しているのかを考察する。すなわち、自転車問題を行政からだけでなく自転車利用者の意識からも考察するものである。確かに引き起こされる自転車問題は、その設備の不備からきている面もあるが、きちんと設置されている状況下でも、問題が継続されていることから、それらの原因について、利用者の意識を考察することにより、ある程度理解できるのではないかと考えられる。アンケートは週に1回以上自転車を利用する人を自転車利用者とし、集計した。アンケート内容は大きく分けて4つの項目から構成され、自転車の利用項目・自転車選択理由項目・自転車問題項目・自転車を取り巻く走行環境に関する項目とした。アンケートの概要を(表-1)に示す。

表-1 アンケート調査実施概要

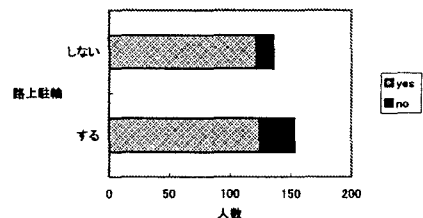
配布日	回収期間	配布枚数	回収枚数	回収率	有効回収数	有効回収率
10月25日	11月一杯	1500枚	349枚	23%	291枚	19%

*アンケートは郵送方式で回収

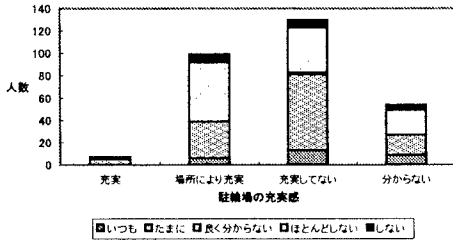
2. 自転車の利用意識に関する調査結果の考察

ここでは、4つの項目の中から自転車問題項目を取り上げて考察する。現在、路上駐輪対策として、福岡市では都心部における有料自転車駐輪場の設置を行なっている。そこで、アンケートでは自転車利用者の路上駐輪を始めとする自転車問題に対する意識について質問をした。(表-2)は路上駐輪をしたことがあるかどうかにより、自転車問題を認識しているかどうかを見たものである。結果として、自転車利用者にとって、自転車の路上駐輪をするしないに関わらず、先ほど挙げた自転車問題は認識されている事がわかる。

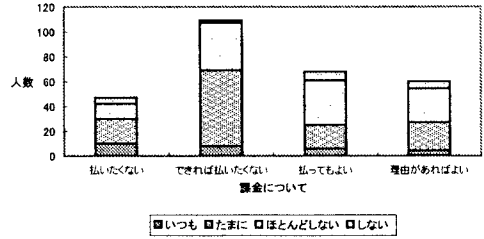
(表-2) 自転車問題認識と路上駐輪



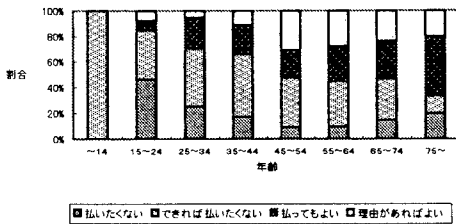
(表-3) 路上駐輪経験と駐輪場の充実感



(表-4) 路上駐輪頻度と駐輪課金について



(表-5) 年齢別料金支払いについて



(表-6) 既存の駐輪施設に対する不満点

十分なスペースがない	117人 (29%)
駐輪場が遠い	85人 (21%)
案内不足	82人 (20%)
有料である	61人 (15%)
施設の整備不足	28人 (7%)
防犯性の低さ	21人 (5%)
その他	10人 (3%)

現在都心部においては自転車の路上駐輪や放置自転車対策として、有料の駐輪場を歩道上に設置する事業が進められている。しかしながら、まだ、それらは有効に活用されておらず、問題の解決が不十分であると言わざるをえない。そこで、既存の駐輪施設に関して、自転車利用者がどのような認識を持っているのかを(表-3)に示した。場所によって充実しているという回答も含めると、市内の駐輪施設が充実していないと回答した人が大部分を占め、そのように回答した人たちは路上駐輪をする割合が高い。また、判らないと回答した人の割合も高く、これは自転車を駐輪場に止めるという認識が低い人達であり、自転車駐輪場を認識させられていないと考え、アンケート回答者の大多数が、現在の駐輪場に不満を持っているということが理解できる。(表-6)は現在の駐輪場にどのような不満を持っているかを聞いたものであるが、一番多かった回答が十分なスペースがないというものであった。また次いで多かったのが駐輪場まで遠い、案内が不足しているといったものであった。(表-4)の有料駐輪場に関する回答では、お金を払いたくないと回答する人は路上駐輪をよくする人であり、路上駐輪をあまりしない人達は料金支払いについて肯定的である。また(表-5)で、料金支払いについて年代別に見てみると、年齢が若くなるに従って、料金支払いに対する抵抗感が多くなっていることが分かる。有料の駐輪場に対して、抵抗感を持つのは恐らく、自転車をお金のかからない交通手段と考えているためであると考えられる。

3. まとめ

本研究では、自転車利用者に対してアンケート調査を実施することで、自転車利用特性を利用に関する意識の面から把握しようとした。今回は自転車の有料駐輪場という例を挙げて、その利用に関しての利用者の意識を調べた。アンケートの他の項目についての考察は、ここには掲載できなかったが、整備をすることがそのまま利用者の増加に繋がるというわけではない理由の一つが利用者の意識を調べることで分かった。今後、自転車利用者の意識をも含めた自転車に関する設備を行なっていくためには、より利用者の考えに基づいた自転車交通施策を展開していくことが望まれる。